

■ 学校の共通目標

授業づくり	重 点	「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、各教科において双方向のコミュニケーションのある授業を目指す。「聴く」こと、「考える」こと、「表現する」ことの3つに重点をおいた。授業を通して、児童が夢中になって学びの対象に関わり、自分の考えをもつことができる授業づくりを目指す。	中 間 評 価	「聴く」こと、「考える」こと、「表現する」ことを意識した授業展開をしている。児童同士が聴き合う場面が増え、コミュニケーションを図ることができている。	最 終 評 価	教員一人一人が対話を意識した授業展開ができた。児童が主体的で協働的な学びをすることができている。
環境づくり		児童にとって見通しのもてる授業設計と、それを可能にする教室環境（ユニバーサルデザインの視点）を整備する。クラスの中で、一人一人の児童がどれだけ安定しているかという居場所感のある学級経営を目指す。		各学級とも落ち着いて授業に取り組んでいる。4年生以上は1学期に行ったhyper-QUの結果を分析し、支援の必要な児童には個別に言葉掛けをすることでみんなにとって居心地のよい学級経営を意識している。		教員一人一人が教室環境を意識し、発達段階に応じた環境を整えることができた。児童が安心して発言できる居場所感を生み出すことができ、夢中になって学習している姿が見られた。

■ 学年の取組み内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課 題（10月）	改善のための取組み（10月）	最終評価（2月）	
1	国語	学 平仮名の促音や拗音、濁音、片仮名の定着も十分といえない。また、文章を書くときに句読点を入れずに書く児童が多い。 学 話の聞き方は定着してきているが、話し方のルールや声の大きさなどまだ十分に定着しているといえない。	・促音、拗音、濁音、片仮名が正しく読み書きできるようになることが課題である。また、句読点を正しく打つことに課題がある。 ・「話す」を中心に基本的な習慣とルールを身に付ける必要がある。	・ワークシートを使い、正しい文字、正しい書き順を書くための練習を行う。 ・国語科を中心に各教科等において、漢字、片仮名、促音、拗音の正しい使い方を指導していく。また、書く活動を各単元で意図的に設定して定着を図る。 ・「聞き方名人」を常掲して意識付け、よい児童を称賛しながら定着を図る。	・平仮名や片仮名については、正しい読み書きができるようになってきた。拗音や濁音については、個人差が大きく個別指導が必要である。正しく拗音や濁音の読み書きが課題である。 ・姿勢を中心に、聞き方や話し方名人を活用しながら指導したことで、聞く態度が習慣付いてきた。話すことは、話型を活用しながら指導している。	
	算数	学 加法、減法の計算は、多くの児童が理解し、正答率が高い。ただし、文章題や応用問題になると正当率が下がる。 学 長さは、基本的な技能、知識の正答率が高い。しかし、比べるものの向きが変わると正答率が下がる。	・文章題を読み取るような思考力に課題がある。 ・日常生活でももの長さやかさを比べる経験がより必要である。	・ブロック操作を言語で表現して計算の意味を理解する練習を繰り返し行う。 ・日常的に、具体的な操作によって直接比べる体験活動を積み上げる。	・様々な単元で、問題づくりに取り組むことで、問題文を注意して読む児童が増えた。加法や減法の計算は、個人差が大きく個別指導が必要である。 ・どちらが多いや大きな数、かたちづくりの学習では、直接操作する活動を通して、比べることの理解が深まり、量感が育った。時間の習熟と形づくりの思考力が課題である。	
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課 題（4月）	改善のための取組み（4月）	中間評価・追加する取組み（10月）	最終評価（2月）
2	国語	学 平仮名を読むことはできるが、形を整えて書くことや書き順を正しく書くことができない児童がいる。また、促音や拗音、片仮名の定着も十分といえない。 学 話の聞き方、話し方のルールや声の大きさなどまだ十分に定着しているといえない。	・正しい文字の形を真似て書くことや正しい書き順で書く意識を形成する必要がある。促音、拗音、片仮名が正しく読み書きできるようになることが課題である。 ・実生活の場面においても「聞く」「話す」の基本的な習慣とルールを身に付ける必要がある。	・書写の教科書、ワークシートを使い、正しい文字、正しい書き順を書くための練習を行う。 ・日々の国語科だけでなく各教科等において、漢字、片仮名、促音、拗音の正しい使い方を指導していく。 ・「聞き方名人」を常掲し、意識付ける。	・丁寧に字形を整えて書く児童が増えている。 ・文章を書く機会を多く確保する中で、促音、拗音の正しい使い方に改善が見られている。 ・友達の話聞いて、自分の考えとの相違点を話したり、付け加えたりすることができるようにしていく。	・新宿区学力調査の結果、全ての領域において目標値を上回った。平均正答率においては、「読むこと」は上回っているが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」などの領域は下回っている。 ・日常的には、友達の話を開いたり、自分の考えを話したりすることに向上が見られている。
	算数	学 加法、減法の計算はほぼ全員が理解している。ただし、文章題や応用問題になると正当率が下がる。 学 長さは、基本的な技能、知識は理解している。比べるものの向きが変わると正答率が下がる。	・加法、減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることが不十分である。 ・日常生活でももの長さを比べる経験がより必要である。	・自分で文章題を作るなどして加法、減法が用いられる場面を想像したり、言語化したりして、実生活に結びつけた学習活動を多く取り入れる。 ・具体的な操作によって直接比べる体験活動を積み上げる。	・計算問題は比較的良好にできているが、文章問題については立式の仕方など繰り返し指導している。 ・具体的な操作を入れた活動については、定着率も高いので、学習課題を見極めながら取り入れていく。	・新宿区学力調査の結果、全領域において目標値を上回り、区の平均正答率も上回った。 ・繰り上がり、繰り下がりの計算の正答率が区より下回っており、習熟が不十分であるので、繰り返し指導していく必要がある。 ・具体的な操作によって体験活動を積みあげてきたが、ものさしの目盛りを正確に読むなどの技能に課題が残る。
3	国語	調 新宿区学力調査の結果、全領域において目標値を上回っている。しかし、文を書く問題については、平均正答率を0.6ポイント下回っている。 学 友達の考えの良さに気づき、許容することができるようになったため、話し合い活動では、結論まで達することができる。 学 文字を丁寧に書くことは28年度と比較すると力が付いている。しかし、正しい書き順を理解することは苦手としている児童が多い。	・経験・想像したことの中から書くことを決め、文を書いたり自分の考えが明確になるように具体的に書いたりすることの能力を身に付ける必要がある。 ・既習漢字を含む文字の書き順が定着していない児童が2割ほどいる。	・文章の読み取りや体験したこと感想など、些細なことでも、自分の考えや気持ちを入れて文章を書くことを継続的に行う。 ・日頃文字を書く際や新出漢字の学習の際には、書き順を重点的に指導する。	・短作文から練習を始め、「いつ」「どこで」「誰が」「どうした」というキーワードを意識して作文できるようになった。文法や構成力を引き続き身に付けさせたい。 ・形をとらえられず、細かいところで間違う児童が多く、書き順と共に指導を徹底していく。送り仮名については力を付けてきている。	・書くこうとすることの中心や目的を明確にして文章を書くことができていない。「いつ」「どこで」「どのような」といった必要な情報を意識して書くことができるように練習が必要。そのため、作文の前の構成を丁寧にを行うように指導すると良い。 ・漢字の書き取りなどは、全体的にできるようになり、基礎・基本的な力が身に付き始めている。

	算数	調 新宿区学力調査の結果、全領域において目標値を上回り、区の平均正答率も上回った。しかし、長さや水のかさの学習については、苦手とする児童が多い。 学 考え方を説明するだけでなく、図から式を立てることもできるようになっている。 学 かけ算の意味をよく理解できており、九九の暗唱テストも全員が合格している。	・ものさしを使った作図や長さを測る学習、水のかさの学習について定着していない児童が3割ほどいる。 ・技能面で、差が開いているため、計算等苦手な児童の引き上げが必要である。	・日常生活の中で、道具を使った操作活動を取り入れ、定着できるようにする。 ・習熟度別少人数指導を活用し、きめ細かい指導につなげる。さらに、放課後学習支援教室でも、既習の学習内容を定着できるように繰り返し指導していく。	・引き続き具体物の操作を取り入れ、量や数の感覚を養う。 ・筆算だとよくできるという児童が多い。数の仕組みなど、既習を振り返る時間をしっかりととり、理解を深めるようにしていく。	・作図や数量感覚については、目標の値まで底上げすることができた。しかし、知りえた情報を整理し、その関係を線分図などに表すことが苦手である。図に表しながら演算決定する練習を取り入れていく必要がある。 ・あまりのあるわり算が苦手な児童がいる。九九と共に、練習を積み重ねていくと良い。
4	国語	調 昨年度の新宿区学力調査の結果、読むことのポイントに上昇がみられた。 調 言語についての知識・理解が低いので、今年度、意識して指導していく。 学 話すこと聞くことや書くことは昨年度の課題だったが、書くことに対する抵抗感はなくなった。正しい表記で表現することに課題が残る。	・国語辞典や漢字辞典の使い方、語彙の数、漢字の定着に課題がある。 ・書こうとすることの中心を明確にし、目的や必要に応じて理由や事例を挙げて書くことの能力を身に付ける必要がある。	・今後も読書指導や読解指導を行うことで更に効果を上げたい。 ・国語辞典や漢字辞典を授業内でも積極的に使用する。また、漢字の定着率を上げるために、小テストを行う。 ・授業において、板書を写すだけでなく、自分の意見を書く時間を確保し書くことの能力を身に付けさせる。	・言語単位については、辞書を積極的に活用した。知識として得た言語を活用する力を付けていくために、短文作りを行う。 ・板書を写そうとする意欲は出てきた。さらに、自分の感想を書けるように指導していく。	・言語単位について、辞書を活用した指導や漢字の小テストを行うことで、新宿区学力調査では目標値より10ポイント以上の結果を得ることができた。 ・必要なことを記録したり質問したりしながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことに課題がある。
	算数	調 新宿区学力調査では、年度当初の課題だった「時刻と時間」の単元がほぼ目標値に達していたので指導の成果が表れた。 学 昨年度から始まった習熟度別少人数指導の結果、成果は上がっている。しかし、算数が苦手な児童がいるので、指導方法の工夫をしていく必要がある。 調 繰り返り下がりのひき算のミスが目立った。練習不足が考えられる。	・数量関係を実生活に結び付けて考えることが苦手な児童が多い。 ・算数の技能面においての取り組みの速さに差が大きい。 ・計算が苦手な児童の引き上げが必要である。	・日常生活の中での行動や経験と対応させて、具体的な場面での時間の経過をつかむことができるようにする。 ・習熟度別少人数指導を活用し、きめ細かい指導につなげる。さらに、放課後学習支援教室でも既習の学習内容を定着できるように繰り返し指導していく。 ・朝学習の時間を活用し四則計算の習熟をしていく。	・目的に合った表現方法を用いて計算の仕方などを考察する力を高めていくために、問題解決をする時間を十分に確保する。 ・計算単位では、計算が苦手な児童を習熟させるために放課後学習教室や補習の時間を設け学力の向上を図る。	・昨年度の新宿学力調査では、数量関係に課題があったが、今年の結果を見ると目標値よりも6ポイント上回る結果となった。 ・日常の事象から算数の問題を見いだし解決し結果を確かめたり、日常生活などに活かしたりする活動を取り入れることで児童の関心意欲を高めたい。
5	国語	調 全ての領域で目標値を上回っている。 調 やや苦手分野であった「漢字を書く」「文の構成」においても向上が見られるが、熟語の意味を捉える必要がある漢字、主語と述語について、定着していない児童が見られる。 調 平成28年度と比較すると、書く力が身についている。	・既習漢字が定着していない児童が3割ほどいる。 ・言語事項の領域では、主語・述語の意味や漢字辞典の使い方（索引）についての理解が不十分な児童が3割ほどいる。 ・作文の力が向上しているが、段落構成の意識が低い。 ・読書意欲が高いが、特定のジャンルに限られている。	・新出漢字の学習の際には漢字辞典で語彙を広げる。 ・漢字の活用ができるように、既習漢字をすべての教科、生活で使用する。 ・作文において、はじめ・中・終わりの段落構成を意識して書かせる。 ・個々の児童の読書傾向を把握し、児童におすすめの本を紹介したり、児童同士で紹介し合ったりして、新たな本に出会う機会を多く設定する。	・漢字学習では、ノートに熟語を書く活動に積極的に取り組んでいる児童が多い。既習漢字を日常生活で使うことも意識できている。 ・作文のモデルを示し、段落構成について理解を深めさせた。いくつかの文例を指導し、形の整った文章を書くことができるようになった児童が増えた。 ・国語の単元での並行読書を意図的に取り入れ、教科書教材以外の作品に触れる機会を多くもたせている。	・全領域において目標値を上回っており、区平均正答率を5.5%上回っている。経年変化を見ると、4年間で最も高い標準スコアであった。 ・漢字の読み書きについては、改善が見られた。 ・領域別では、読むこと、書くことにおいて目標値を20ポイント以上上回った。 ・話すこと聞くことにおいては、話し方の工夫を考えながら聞くことに課題が見られた。
	算数	調 全ての領域で目標値を上回っている。 調 「大きな数、概数の表し方」「面積」の領域が相対的にみるとやや正答率が低い。 学 学習の様子は意欲的で、宿題も確実に取り組み、算数への得意意識をもっている児童が多い。計算は速いが、途中式をおろそかにするなど、問題の読み間違いや丁寧さが欠けることによるケアレスミスが多い。	・面積では、単位の換算や広さのイメージを苦手としている。 ・「概数」では問題文によって、また場面に応じてどの位を四捨五入するか思考することに課題が見られる。	・日常生活での量感覚（かさ・広さ・長さ）を意図的に活用する場面を作り実感を伴った理解ができるようにする。 ・東京ベーシック・ドリルを活用し、基本的な内容の定着を図る。	・体積の学習で1㎤立体を重ねて体積を表したり、平均の学習で、歩数を測って平均を求めたりするなど、実感を伴った理解を促している。 ・分数の計算での約分に課題がある児童が多いため、繰り返し計算練習に取り組ませている。 ・東京ベーシック・ドリルの苦手分野のプリントを活用して、朝学習等で取り組ませている。	・全領域において目標値を上回っており、区平均正答率を1%上回っている。しかし、標準スコアは昨年度よりも3ポイント下回っている。 ・領域別では、量と測定（単位量当たりの大きさ）は、目標値を大きく上回っている。思考表現の伸びが見られる。 ・数と計算（小数のわり算）図形（体積・合同）が低い傾向が見られる。正確な計算力を付けていく必要がある。
6	国語	調 3年続けて全ての領域で目標値を上回っている。 調 平成28年度(4年次)と比較すると、平成29年度は「書くこと」の領域がさらに17.3ポイントと大きく向上している。 調 内容別正答率を見ると、「漢字を書く」の内容が僅かではあるが、目標値を下回っている。 学 読書活動への取り組みが意欲的であり、読む力が身に付いている。上記とも関連するが、漢字の学習や小テストを見ると十分に定着していない状況である。	・既習の漢字が定着していない児童が2割程度いる。 ・作文等での漢字の活用に課題が見られる。 ・言語環境が乱れている児童が多くみられる。 ・事実と意見を区別して文章を書くことが苦手な児童がいる。	・漢字の活用ができるように、既習漢字をすべての教科、生活で使用する。 ・それぞれの立場を明らかにしたうえで、考えを述べあい、互いの考えをもとにして話し合いをする活動を取り入れる。 ・筋道の通った文章になるように、文章全体の構成や展開を考えさせる。	・漢字の読み書き小テストに日常的に取り組んだことや、ノート指導に力を入れたことで少しずつ、力になってきている。 ・意見文などの学習を通して、自分の立場を明確にした文章が書けるようになってきている。書く活動だけではなく、話す活動にも取り入れていく。	・漢字の読み書き小テストに日常的に取り組んだことや、ノート指導に力を入れた結果、年度末に行った学力調査では、「書くことの領域」で4.2ポイント向上することができた。 ・意見文など多くの文章を書かせたり、引き続き読書活動に力を入れたりした結果、学力調査では作文の項目で5.9ポイント向上させることができた。

	算数	調3年続けて全ての領域で目標値を上回っている。 調内容別正答率を見ると、目標値は上回っているものの、体積に苦手な傾向が見られる。 学学習の様子を見ていると数の概念はしっかりと身に付いている。計算も速い。ただ、速さに気がいつてしまい、途中式をおろそかにするなど、丁寧さが欠けることによるケアレスミスが多い。	・辺の数や長さ、頂点の数など実体概念としては図形を捉えられているが、平行や垂直などの関係概念から図形を捉えることに課題が見られる。 ・図形の定義や作図に課題が見られる。	・算数的活動を積極的に取り入れ、図形についての豊かな感覚を育てていく。 ・東京ベーシック・ドリルに取り組み、基礎・基本の定着を図る。	・算数的活動を様々な単元で取り入れたことにより、図形についての感覚が育ってきている。 ・東京ベーシック・ドリルに繰り返し取り組んだことにより、苦手分野を把握することができ、具体的な指導ができていく。引き続き指導していく。	・算数的活動を様々な単元で取り入れたことにより、図形についての感覚が育ち、目標値を 5.5 ポイント上回ることができた。また、量と測定の領域では昨年度と比較すると、14.8 ポイントも上回ることができた。これも算数的活動や東京ベーシック・ドリルに繰り返し取り組んできた結果である。
	音楽	学音楽朝会での各学年の発表や、全校合唱や全校合奏を通して、音楽活動に意欲的に取り組む児童が増え、表現の技能が高まっている。 学箏を活用した授業を実施してきており、特に高学年の児童は、基本奏法で演奏することができる。	・主体的な学習の取り組みに個人差がある。	・課題選択の幅を広げ、自らめあてをもって主体的、対話的に学習する姿勢を高めることによって、表現の技能や鑑賞の能力を高める。	・音楽会に向けて、楽器パートの選択幅を広げるように編曲を工夫することによって、主体的に学習に取り組む児童が増えている。児童が今もっている表現力からより工夫した表現ができるように指導していく。	・めあてを持って、協力して音楽活動しようとする意識が高まり、音楽活動に意欲的に取り組む児童が増えた。 ・音を出すための準備をし、よく聴いて、歌詞や曲想にあった表現を工夫する力を高めたい。
	図工	学どの学年も概ね課題には、前向きに取り組んでいる。製作途中でやり直しをしようとする児童や、自分の作品に自信をもてない児童が上学年になるにつれてしばしば見られる。	・様々な材料用具を経験しているが、主体的に、それらを活用したり、材料の特徴をいかして表したりすることに、まだ慣れていない様子が見られる。	・様々な材料、用具の体験ができる題材を継続して実践し、表したいことを主体的に見付けられるようにする。 ・製作途中や製作の終わりに全員で作品を鑑賞したり、個別の支援や声掛けなどを意識したりし、「対話」を取り入れた授業展開を行う。	・規範意識がまだ育っていない学年もあるので、音楽会に向け、共同制作や装飾に活用する作品等に取り組み、協調しながら作製する体験を実施する。 ・製作過程でも導入や振り返りで、作品との対話を取り入れていく。	・課題には、主体的に取り組める児童が多いが、作品に対する児童同士の認め合いや活動の中での譲り合いなどが、各学年浸透していない児童が一部におり、引き続き指導をしていく。 ・全員の作品を見合う場を取り入れたことによって、徐々に自分の作品に自信がもてるようになってきた。
特支						

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。